

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成30年9月26日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1690200181		
法人名	株式会社 北陸福祉会		
事業所名	はびねすグループホームいずみ		
所在地	富山県高岡市泉町9番35号		
自己評価作成日	平成30年8月25日	評価結果市町村受理日	平成30年10月18日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	
-------------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	北証パトナ株式会社
所在地	富山市荒町2番21号
訪問調査日	平成30年9月11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

お客様の意思を尊重し心身の状態を把握することで、お一人おひとりに合ったサービスの提供ができるよう職員一同心掛けています。誕生日会や桜見学、外食など様々な行事を通して季節を感じて頂いたり、お寺の住職を招いて法話を聞くなど、日々楽しめるような行事を企画し、お客様同士や職員との交流を深めることで信頼関係が築けるよう努めています。また、認知症予防改善のため「くもん学習療法」を行ったり、下肢筋力低下防止の為座った状態でも安全に運動ができる「イージー・ウォーク」を取り入れ健康維持に努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

職員は、厳しい時代を生き抜いた利用者一人ひとりを敬い、皆が笑顔で過ごせるよう支援している。畑で採れた野菜に「採れたては美味しいね」と会話を弾ませたり、名月の時期には、皆でおはぎをつくり、お茶会を楽しむなど、暮らしの中に季節感や楽しみごとを取り入れている。また、事業所横には田んぼがあり、稲の生育具合を眺めながら、近所の人達と挨拶を交わすなど、地域の人達に溶け込むよう努めている。

V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します。

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

はびねすグループホームいずみ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	その人らしく暮らしていただく為に、グループホームの役割、位置づけに応じた理念を立てて支援している。	新入職員や中途入職者には、理念に沿った支援の在り方をおよそ1か月間かけてサポートし、現任職員と共に、カンファレンス時などに理念を再確認し、実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的に散歩、買い物に出かけ、地域の方と積極的に挨拶や会話を交わしている。	地域では、自治体組織がないが、散歩中に近隣の人達と挨拶を交わしている。また、手品などのボランティアや福祉科高校生の実習を受け入れるなど、地域とのつきあいを大切にしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域連携室から地域の方の介護について相談を受けたり、過去には地域包括支援センターからの依頼により家族向けの介護教室をさせていただいたことがある。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	お客様のご家族、地域住民代表、地域包括支援センターの職員、グループホームの運営者、職員により、現状報告、参加者からの意見や要望を話し合い、サービスの向上に反映させるよう努めている。	家族からは「お便りがわかりやすい」などの意見や、民生委員や地域包括支援センター職員からは、地域の福祉に関する情報などをもらい、事業所の運営に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の議事録を高岡市高齢介護課の担当者に提出し、意見のやり取りを行なっている。	一般的な情報は、市から届くメールで確認している。そのなかで、介護保険法の改正などがあれば、具体的な運用を電話や口頭で相談している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止に関する指針を整備し、定期的に職員全員が参加する身体拘束廃止委員会を開催している。また、ミーティング時にお客様の現状を把握する他、身体拘束についての勉強会を行っている。防犯上玄関の施錠を行なっているが、お客様が外出したい時はいつでも外に出られるようにしている。	法人としてつくっている身体拘束廃止委員会の体制を強化し、計画的な勉強会を行い、職員の理解を深めている。言葉づかいにも留意し、安全に配慮しながら、伸び伸びと暮らせるよう支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止マニュアルを作成し、職員全員で意識を共有している。また、入浴時や更衣のときなどにちょっとした傷やアザも見逃さないように確認している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	定期的に司法書士会から講師を招き、成年後見人制度や権利擁護について職員全員が学び、必要性があるご家族に制度について紹介できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に時間をかけて説明を行ない、ご家族の方にも一緒に重要事項説明書と契約書を読んでいただき、不明な点があった場合は理解して頂けるまで説明している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に苦情、ご意見箱を設置している。また、ご家族が訪問された時に意見や要望を聞き、内容を業務日誌などに記録して職員全員が把握できるようにしている。	利用者が主体となるよう、花見の行き先やレクリエーションの内容など、利用者の要望を取り入れている。家族には、日頃から事業所での様子を伝えると共に、要望や意見などを述べやすい雰囲気をつくっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度、代表者と職員全員でミーティングを行ない意見交換や提案を聞いている。また、日頃より職員からの要望や意見が聞けるようにコミュニケーションを図っている。	ハード面とソフト面、共に、職員が働きやすい環境をつくるために、職員からの物品購入の要望や勤務体系の要望などを聞き、運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は管理者や職員から意見を聞いたり、勤務状況に気を配っている。また、資格取得を推奨するなど、職員がやりがいをもって働ける職場環境の整備に努めている。資格取得者には手当を支給している。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	日本認知症グループホーム協会の研修会等、積極的に研修に参加させており、中堅職員は認知症実践者研修を修了している。研修に参加した職員は報告書を作成し、ミーティング時に発表している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(公社)日本認知症グループホーム協会に加盟しており、研修会等を通じて加盟事業所等と交流したり、社会福祉協議会等が主催する研修会に参加し地域の他施設、多職種の方々と交流することで、そこで得た学びをサービスの向上に活かしている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	お客様が安心して暮らせるように、入居される前後にご本人の要望や困っていることを聞く時間を設けて信頼関係を築くように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス利用までの経緯やグループホームでの生活に対する不安・要望を時間をかけて伺い、安心してサービスを利用して頂けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族からの情報を集めアセスメント表を作成し、それに基づき「その時」に必要なサービスが提供できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お客様は人生の先輩であるという思いを職員全員が共有しており、お客様それぞれの得意分野で力を発揮していただき、お互いに協働しながら良好な関係を築いている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月個々にお便りを作成し、献立表、行事、日常の様子をお知らせしている。また、季節ごとにホーム新聞を発行し、近況を伝えている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないうよう、支援に努めている	入居後も継続して馴染みの友人等が面会に訪れることもあり、楽しく過ごされるように心掛けている。	利用者から馴染みの場所への外出希望は少ないが、花見などは、地元（千保川や古城公園）に出かけている。事業所には、かつての職場の同僚の訪問などがあり、馴染みの関係継続支援に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	みんなで楽しく過ごす時間や、共通の趣味や気の合う方同士で過ごせる時間が作れるよう職員が調整役となり、お客様同士が良好な関係になるよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了してもこれまでの生活が損なわれないよう、グループホームでの生活環境、支援内容などの情報提供を行なっている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	お客様との日常会話を通して情報収集を行ない、希望や意向を把握するように努めている。また、ご家族からの意見を伺い、お客様が何を望んでいるのかを把握し、ケアに反映できるよう努めている。	利用者が職員に対して口にする「言葉」だけでなく、利用者同士の会話などにも留意し、また、言葉にならない本人の思いを、表情や仕草などから見極めるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人や家族からの聞き取りを行なっている。情報は個人記録に記入し、職員全員が情報を共有できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活のリズムを把握し、日々の行動や表情等から心身の状態を感じ取り、本人の全体像を把握するよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族からは、日々の関わりの中で意見や要望を聞き、ケアプランに反映できるようにしている。また、カンファレンス、モニタリングを行ない職員の意見も組み込んで作成している。	利用者ごとに担当を決めているが、カンファレンス時に担当以外の職員も意見を出し合い、また、家族の要望も取り入れた介護計画を作成している。介護計画と連動させたケアチェック表に日々記録し、利用者ごとのモニタリングにつなげている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	食事、排泄等の身体状況及び日々の暮らしの様子や本人の言葉、行動を記録している。職員は業務開始前に記録の確認を義務付けている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に見えるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人、ご家族の状況に応じて通院の支援や、買い物を代行する等柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	訪問理美容サービスや協力医療機関の訪問診療、地元のスーパーに買い物に行くなど、地域の社会資源を活用している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医について説明し、ご本人、ご家族の希望に応じて対応している。通院は基本的にはご家族にお願いをし、無理な場合には職員が同行することもある。また、毎月協力医療機関の訪問診療がある。	診療内科医による訪問診療を希望する利用者がほとんどで、受診の日には看護師が対応し、日々の様子を伝えるなど、適切な医療の受診に取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の関わりの中での気づきを職員間で共有することや、毎日バイタルチェックを行ない、お一人おひとりを把握することで、不調が見られた時には速やかに看護師に相談し、受診が必要な場合にはご本人の状態を的確に医療機関に伝えられるような体制となっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院先のケースワーカーや看護師と回復状況や今後の生活についての話し合いをしたり、退院前カンファレンスに参加するなど、積極的に情報交換を行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期については利用開始時に説明を行ない、必要に応じてホーム長とご家族で話し合いながら、事業所で出来ることを十分に説明している。	入居時に「重度化した場合における対応および看取りに関する指針」を書面で説明している。その後、体調をみながら、改めて指針に沿って、事業所として出来ること、出来ないことを具体的に説明し、家族などと今後の方針を確認している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生マニュアルに沿って訓練を行なっている。職員は普通救命講習を受講しており、初期対応の実践力を身に付けている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防、防災マニュアルを作成している。消防署の協力を得て、年2回の避難訓練の実施や防火講習を受講している。地域との協力体制が築けるように運営推進会議を通して働きかけている。	様々な災害で予測される停電に対応するため、懐中電灯やカセットコンロ、飲食物などを備蓄している。火災については、昼夜想定での避難訓練を実施している。	運営推進会議を通して、地域の皆さんに避難訓練に参加してもらうようお願いしているが、参加は少ない。今後は、避難後の見守りなどを担ってもらうためにも、参加してもらうことが期待される。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ミーティング時に職員の意識向上を図るとともに、お客様の誇りやプライバシーを損ねないよう、尊敬の念を持って接することを心掛けている。	厳しい時代を生き抜いた利用者一人ひとりの人生を敬う気持ちを持って接するよう、代表者や管理者は常に職員に働きかけ、目配り・気配り・心配りをしながら支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の対話の中から、お客様の思いや希望を聞き、その方に応じた選択方法や説明を行ない、その方の思いが出来る限り叶うように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはあっても、一人ひとりの生活ペースに配慮し、その方の思いで一日を過ごして頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	出来るだけ着替える衣類はご本人に決めて頂き、お化粧などもご本人の意思でして頂いている。散髪などの理美容サービスの利用についてもご本人に決めて頂いている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節を感じていただけるよう旬の食材を取り入れた献立作りを心がけ、お客様と一緒に配膳や片づけを行なっている。また、職員も一緒に会話を楽しみながら食べている。	職員は、利用者と一緒に食事をしながら、食の進み具合などをさりげなくサポートしている。また、季節の食材を使った炊き込みご飯など、食欲が進むよう献立を工夫している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量を毎回日誌に記録し、栄養バランスや水分量等を観察している。また、個々の嗜好を把握し提供する食事量や形態を変更している。毎月体重測定を行ない、個々に対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを行なっている。自分で出来る方には声掛けをし、介助が必要な方は職員が支援している。必要に応じて訪問歯科診療を受けたり口腔ケア用品を使用するなど口腔内の清潔保持に努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を活用して個々の排泄パターンを把握し、時間ごとの誘導や声掛けを行なっている。	利用者に対する声かけや失禁の確認など、デリケートな支援であることを認識し、利用者の自尊心を損ねない排泄支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の食事の中で牛乳やヨーグルト、食物繊維が豊富な食材を使うことで自然な形で排便を促している。お客様によっては主治医の指示により薬を飲んでいる方もいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	毎日入浴できるようにしている。入浴拒否や体調により入浴されない時は、清拭や足浴を行なうよう努めている。	「熱めのお湯が気持ちいい」「ぬるめのお湯にゆっくりと浸かりたい」など、一人ひとりの希望と体調を考慮し、「あーすっきりした」と言ってもらえるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間不眠の方には日中の活動を促しているが、そうでない方には自由に日中も休んで頂いている。室温の管理を始め、寒いときには湯たんぽを提供するなど、気持ちよく休んでいただけるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬に変更がある場合は日誌に説明を記入している。個々の薬の情報をファイルに綴り、職員全員が把握できるようにしている。誤薬がないように、看護師、遅番職員、夜勤職員で3回チェックしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりが得意分野で力を発揮していただけるよう、女性の方には家事や裁縫、男性の方には力仕事などをお願いし、感謝の意を伝えている。また、外食やお祭りなどのイベントに出かけ、気分転換出来るように支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候や本人の気分に応じて日常的に散歩に出かけている。また、お花見などの行事や外食などで外出する他、ご家族と一緒に出かけられるよう支援している。	利用者の体調や希望に沿って、散歩などに出かけている。事業所の横には、田んぼがあり、稲の生育具合や事業所の畑の野菜が実をつける様を眺めるなど、季節の移り変わりを感じ取っている。また、千保川沿いに出かけ、桜を楽しむなど、戸外で過ごす機会をつくっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小額のお金を持っておられる方もいるが、基本的にはご家族からお小遣いを預かり事務所で管理しており、買い物に出かけた時には欲しいものを買って頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話はいつでもかけられるようにしており、葉書や切手など、手紙が出せる支援を行なっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は明るく落ち着いた雰囲気の中で太陽の自然光が入るように配慮している。また、畳の間にはお仏壇があり、お客様がお仏飯や水を供え毎朝お参りしている。また、季節を感じていただけるように装飾したり、行事の写真やお客様の作品を展示するなど、みんなが楽しめる空間作りに取り組んでいる。	空調や照明は、職員の体感ではなく、利用者に合わせて調節している。リビングには、秋を先取りした葡萄と梨の装飾品を飾るなど、季節感を取り入れ、和やかな雰囲気をつくっている。また和室にはお仏壇があり、住職をお招きして法話の会を開き、皆でお参りするなど、家庭のような雰囲気をつくっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールの一角には和室があり、腰を掛けたり、昼寝をしたり、お仏壇にお参りをしたりできる。ソファに座りくつろいで会話を楽しんだり、テレビを見ることもできる。日向ぼっこが出来る場所も設けている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、レクリエーションで制作した作品や、家で使っていた馴染みの家具、家族写真などが飾ってある。	使い慣れたハンガーに、夏の半そでから長袖のブラウスを掛け替えたり、不要紙を切ってメモ用紙を作り、筆筒の上に置くなど、一人ひとりが居心地良く過ごせる居室をつくっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	本人にとって何が「わかりにくい」のかを把握し、どうすれば「できること」「わかること」に変えられるかを全職員で話し合い、その都度、環境作りをしている。		

2 目 標 達 成 計 画

事業所名 はびねすグループホームいずみ  
 作成日 平成30年10月16日

【目標達成計画】

優先順	項目番	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	35	避難訓練に地域の方が参加していない	避難訓練に地域の方が参加していただけるよう努める	避難訓練に参加していただけるよう働きかける	1年間
2					
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。  
 注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。

はびねすグループホームいずみ